

環境

環境マネジメント	69
製品ライフサイクルにおける資源循環	78
事業活動における環境負荷低減	85

Materiality

環境への負荷低減

背景

気候変動への適応・緩和をはじめ、水資源や生物多様性の保全など、環境問題は世界全体が抱える大きな課題の一つです。ヘルスケア市場においても、気温上昇による熱帯病の流行地域拡大や大気汚染による呼吸器疾患の増加などが、医療費の増加や医療インフラの逼迫を招く恐れがあります。シスメックスはグローバルに事業を展開する企業として、深刻化する環境問題への対応は、当社にとって最も重要な課題の一つと認識しています。気候変動は、大規模な自然災害や干ばつを通じて製品の安定供給やサプライチェーンに深刻な影響を及ぼすリスクとなる一方、環境配慮型製品の開発や輸送効率の向上といった取り組みを通じて、競争優位性の向上という機会も生み出します。また、これらの取り組みは、企業としての責任を果たすとともに、環境への負荷を低減し持続可能な社会の実現にも寄与するものであり、重要な課題であると考えています。

方針

シスメックスは「ヘルスケア分野に関わる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献する」という「環境方針」に基づき、2023年5月に「シスメックス・エコビジョン 2033」を制定しました。これは、シスメックスグループが2033年に向けて目指す長期環境ビジョンであり、ステークホルダーとともにグリーンイノベーションに挑戦し、シスメックスならではの強みを生かし、循環型社会の実現に向けた新たな常識を協創することを目指します。

▶環境方針

体制

取締役社長により任命された環境マネジメントオフィサー（取締役 常務執行役員）の統括・管理の下、環境管理委員会を中心にグループで環境マネジメントに取り組んでいます。

環境

環境マネジメント

シスメックス・エコビジョン 2033

「シスメックス・エコビジョン 2033」の制定

シスメックスでは、2023 年 5 月に「シスメックス・エコビジョン 2033」を制定しました。これは、シスメックスグループが 2033 年に向けて目指す長期環境ビジョンであり、ステークホルダーとともにグリーンイノベーションに挑戦し、シスメックスならではの強みを生かし、循環型社会の実現に向けた新たな常識を協創することを目指します。そして、2040 年までにグループの事業所から排出される温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル目標」を設定しました※。オペレーションの効率化や省エネ施策を引き続き推進するとともに、自社の事業所の消費電力を再生可能エネルギー由来に段階的に切り替えるなど、温室効果ガス削減の取り組みを進めていきます。

※自社での燃料の使用による温室効果ガスの直接排出（スコープ 1）および自社が購入した電気・熱の使用による温室効果ガスの間接排出（スコープ 2）が対象

長期ビジョン

長期環境ビジョン

環境と健康の関わりを認識し、循環型社会の実現に新たな常識を協創する。

気候変動

水

資源循環

生物多様性

機器と診断薬の両方を保有する強みを生かし、バリューチェーンを資源循環型に変革します。

環境負荷を低減する製品・サービス・ソリューションを開発し、提供します。

ステークホルダーと協創し、グリーンイノベーションに挑戦します。プロダクトロスのゼロ化とリサイクル・環境配慮材料への大幅な代替を進めます。

2040年カーボンニュートラル達成※に向け、CO₂削減を進めます。ユニークな方法で資源循環と生物多様性の保全に取り組み、水使用の大幅な効率化や脱動物由来原料を拡大します。

地域の環境保全活動を奨励し、グループ全体で循環型社会に貢献します。

3 気候変動
気候変動
3

8 資源循環
資源循環
8

9 資源循環
資源循環
9

12 気候変動
気候変動
12

13 環境保護
環境保護
13

17 資源循環
資源循環
17

※自社での燃料の使用による温室効果ガスの直接排出（スコープ1）および自社が購入した電気・熱の使用による温室効果ガスの間接排出（スコープ2）が対象

長期環境目標

長期環境目標

気候変動

一人あたりのエネルギー使用量の削減や再生可能エネルギー比率を**90%**以上にすることで、**自社温室効果ガス排出量(スコープ1,2)**を**55%**削減※します。

製品の省エネ化・小型化やサプライチェーンマネジメントの革新等を通じて、**サプライチェーンの温室効果ガス排出量(スコープ3)**を**35%**削減※します。

水

水使用の効率化により主要な試薬生産拠点の**試薬生産量あたり水消費量**を**90pt**(パーセントポイント)削減※します。
また、機器使用時の水消費量についても削減します。

資源循環

未使用自社製品の廃棄ゼロを目指します。
また、売上高あたり総廃棄物量を**15%**削減※します。

容器と包装材のリサイクル・環境配慮材料の使用率**100%**を目指します。
また、製品梱包の工夫や代替原材料の活用によりプラスチック消費量を削減します。

生物多様性

脱動物由来原料製品のラインアップを拡充します。

※数値は2033年度目標（基準年度：2022年度）

SBTi より near-term target の認定

シスメックスは、気候科学に基づき環境危機克服に取り組む国際的イニシアチブ「Science Based Targets initiative (SBTi)」より、グループの 2033 年度温室効果ガス削減目標の認定を取得しました。

当社は、「シスメックス・エコビジョン 2033」の中で、自社 GHG 排出量（スコープ 1、2）とサプライチェーンの GHG 排出量（スコープ 3）の削減目標を設定しています。このうち、スコープ 1、2 を 55% 削減する目標について、1.5°C 目標に沿う科学的根拠に基づいていることが認められ、スコープ 3 における販売した製品の使用による GHG 排出量を 35%

削減する目標が、2.0℃を十分に下回る水準であることが認められました。また、当社が新たに設定したエンゲージメント目標は、スコープ3の購入した製品・サービス、資本財、上および下流の輸送、配送における取引先の60%が、5年以内に科学的根拠のあるGHG削減目標を持つことを推進するものとして認められました。

世界のGHG排出量削減がパリ協定の1.5℃目標まで隔たりがある中、さらなる社会要請の変化が訪れると考えられます。当社はSBTi認定を機会と捉え、事業所拠点のエネルギー調達および販売・サービスのあり方を変えることによるCO₂排出減、製品に環境配慮材を用いることによる資源循環などを進めます。グループの知恵を結集した創意工夫によりグリーンイノベーションを実行し、脱炭素の取り組みを推進してまいります。



TCFD・TNFD 提言に基づく情報開示

シスメックスは、2021年のTCFD提言賛同以降、エコビジョンのもと取り組んできた気候変動対策に続き、2025年7月には自然関連のリスク管理と情報開示を推進することを目的としたTNFD提言に賛同し、TNFD Adopterに登録しました。気候変動や自然資本の課題を一体的に捉え、統合的なリスクと機会の評価を推進することで、事業活動への好影響と自然環境の保全を両立させる省資源や資源循環を前提とした持続可能な活動を強化します。

TNFD 提言に基づく一般要件

マテリアリティの適用

社会価値と企業価値におけるインパクトの観点から定められたシスメックスのマテリアリティに加え、気候変動・自然資本への依存と影響を考慮したダブル・マテリアリティを採用

開示範囲

シスメックスグループの事業活動に加え、バリューチェーン全体を包含してリスクと機会を評価。自然資本については、事業活動における生産量や依存と影響における資源の使用 排出量の点を踏まえ重点的な評価対象を選定（今後適時追加予定）

自然関連課題のある地域

要注意地域の定義に沿って、事業拠点（隣接エリアを含む）を対象に、生物多様性リスク評価ツール「WWF Biodiversity Risk Filter」と水リスク評価ツール「Aquaduct」、および自社の環境パフォーマンスデータより評価。現地と連携してモニタリングを継続

他のサステナビリティ課題との統合

気候変動と自然資本は互いに影響を及ぼすため、TCFDで既に開示している内容と統合的アプローチを採用

時間軸

リスクが発現する期間として、短期：1年、中期：～3年、長期：～10年（従来から変更なし）

地域とのエンゲージメント

人権方針に基づき企業の包括的な責任の一環として環境への配慮を位置付け、自然関連の評価において事業拠点周辺地域の自治体などとの確認を含むコミュニケーションを行い、地域への環境負荷を把握

▶マテリアリティ

▶人権方針



ガバナンス

シスメックスは、環境マネジメントオフィサー（取締役 常務執行役員 小野 隆）の統括・管理のもと、環境管理委員会を定期的に開催し、気候関連、自然資本などの環境課題に対する施策を推進しています。また、計画に対する活動状況や重要事項については、取締役会監督のもと、執行役員会議などの経営会議にて討議・決定を行っています。

▶持続可能な社会の実現に向けた環境への取り組み

戦略

シスメックスは、2025年、気候変動と自然資本の相互影響を考慮したTCFDとTNFDの統合シナリオ^{*1}と、長期計画経営戦略の基本戦略であるエコソーシャル戦略を踏まえてグループ全事業^{*2}を対象にリスクと機会を再評価しました。リスクと機会が及ぼす財務影響については、2033年度の営業利益に与える影響を基準として3段階で評価を行いました。自然資本については、TNFDが推奨するLEAPアプローチを活用し、依存と影響を評価し、「淡水」と「土壌」を認識すべき自然資本として抽出しました。これらの資源の保護と持続可能な利用に向けた取り組みを強化しています。

- ※1 外部シナリオツールを使用：AR6（SSP1-1.9、SSP5-8.5）、The IPR FPS + Nature、IEA（STEPS、NZE）、Aquaduct Water Risk Atlas
※2 自社のみならず、原材料調達や出荷物流などの上流や製品の使用など下流を含めたサプライチェーン全体を分析対象としている。

LEAP アプローチ評価の実施

シスメックスは、TNFDが推奨するLEAPアプローチに基づいた評価を実施しました。自社および第三者の視点から、ビジネスモデル、売上構成比率、産業分類（SICS）を踏まえて、ダイアグノスティクス事業において、製品バリューチェーン上の環境負荷を整理し、事業拠点の地理情報を確認のうえ、ENCORE、SBTNのMateriality Screening Tool、High Impact Commodity Listとの照合を行いました。地域別のリスク評価では、Biodiversity Risk FilterおよびAquaductを活用し、自然資本への負の影響が大きくなり得る地域を特定し、淡水および土壌を重点的なリスク・機会領域として抽出しました。さらに、TCFDとTNFDの統合シナリオに基づき、異なる温度帯と世界観の2象限を用いて将来的な影響を評価しました。その結果を踏まえた関係部門との協議を通じて、優先地域における事業活動と自然資本の関係性を確認・整理しました。今後は評価対象地域を拡大し、自然資本（淡水・土壌）の維持・回復につながる取り組みを戦略的に推進していきます。

確認対象を抽出	自社視点の確認	第三者視点の確認	依存と影響の確定	リスクと機会の評価	報告準備
以下情報から検討 ・ビジネスモデル ・売上構成比率 ・SUSTAINABLE INDUSTRY CLASSIFICATION SYSTEM (SICS) による産業分類	製品バリューチェーンにおける環境負荷の整理とデータ、事業拠点の地理的情報を確認	依存と影響のスクリーニング ・ENCORE ・SBTNのMateriality Screening Tool ・SBTNのHigh Impact Commodity Listとの照合 負の影響が大きくなりやすい地域との接点を調査 ・Biodiversity Risk Filter ・Aquaduct	自社視点と第三者視点の確認で示唆された結果を重ね合わせ、リスクと機会を確認する「対象」を抽出	TCFDとTNFDの統合シナリオを検討 ・温度帯や世界観の異なる2象限を選定 リスクと機会の評価、対応策の検討 ・関係部門との協議 ・自然資本維持につながる活動の検討 SBTN AR3T フレーム ・優先地域における事業拠点の影響評価	TNFD ガイダンスに従った開示
↓ Diagnostics 事業を抽出（機器・診断業）	↓ Diagnostics 事業を支える生産・研究開発拠点を優先地域とする妥当性を確認	↓ 「水」リスクが高い地域と接点ありと示唆。特に、インド・中国に注意との結果。実効的な判断には現地状況を踏まえた詳細確認が不可欠と認識	↓ ヒートマップを最終化		

依存と影響の特定

抽出した対象領域について、自社および第三者の視点から、自然資本への依存と事業活動による影響の有無・大きさを整理・評価しました。

重要度評価（ヒートマップ）

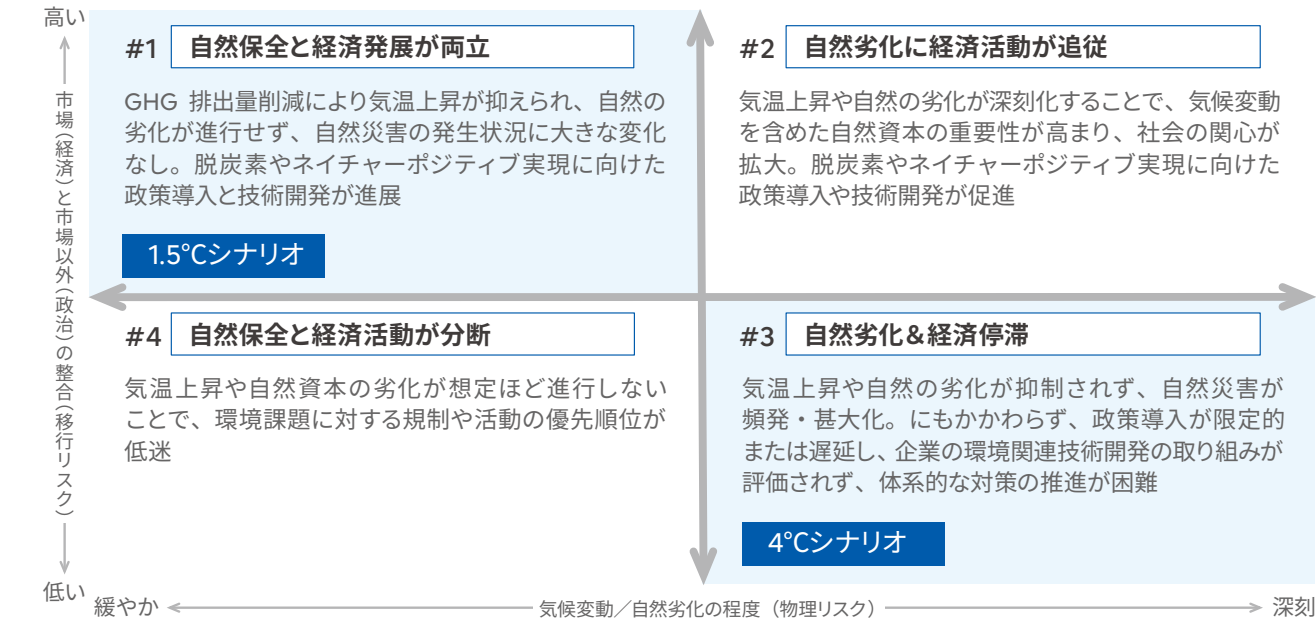
			機器	試薬
依存	土壌	土壌保護／侵食防止	—	Middle
	淡水	地下水	—	High
		表層水	—	—
		水循環	—	Middle
	生態系	遺伝物質	—	—
影響	資源利用	水利用	—	High
	汚染	大気汚染	—	—
		土壌汚染	Middle	Middle
		固形廃棄物	Middle	Middle
		水質汚染	Middle	Middle
	妨害	騒音・光害	—	—

リスクと機会の評価

依存・影響の整理を踏まえ、自然資本と気候変動を統合的に捉えた 2 つの将来シナリオを用いて、リスクと機会を評価し、対応策を検討しました。ネイチャーポジティブに向けて、自然資本維持につながる活動を SBTN（SBTs for Nature）が提唱する自然資本に対する AR3T フレームワークで整理しました。

シナリオ分析

気候変動と自然資本を統合的に捉えた将来シナリオから世界観の異なる #1、#3 を選択



リスクと機会

環境課題に対するリスク

リスク	カテゴリー	想定されるリスク※1	影響期間※2 財務影響	取り組み※1
移行リスク				
政策	気候変動 自然資本	法規制の変化により、原材料や技術の使用制限が発生し、製品供給が困難または高額な代替品が必要となる	中長期 Low	各地域の統括拠点に品質保証・薬事部門を設置し、法務規制の変化に対応 原材料の定期的なリスクアセスメントを実施し、代替原料への切替検討による安定供給の確保
市場	気候変動	エネルギー・原材料・グローバル物流コストが増大する	短～長期 High	再生可能エネルギーの導入や省エネルギー対策・設備の効率化、さらに輸送効率の高い濃縮試薬製品の 対象拡大、ボーダレス物流網整備 などによるエネルギーコストの抑制
技術	気候変動 自然資本	環境負荷の低い素材や技術への移行にともない、研究開発コストや設備投資が増加 期待されたタイミングで環境規制に対応した製品の実用化が困難になる	中長期 Low	法規制や顧客要請、市場・業界動向を踏まえた製品・技術開発の推進、および環境配慮型素材への計画的な代替
評判	気候変動 自然資本	顧客の環境意識の変化により、当社製品の環境負荷に対する批判が生じ、需要および競争力が低下する	中長期 High	顧客の声を製品開発や品質改善に活用する仕組み（Voice of Customer：VOC）の活用、 水平リサイクル可能な試薬容器開発など、環境配慮型の企画設計ならびに技術・製品開発の推進

物理的リスク

急性	気候変動 自然資本	大規模な自然災害により、 工場被災やサプライチェーンの寸断が生じ、生産 や製品供給が困難になる	短～長期 High	事業継続計画（BCP）に基づく、 消費地近隣での分散生産体制の構築や、原材料の複数社購買 ・供給体制・輸送ルート・安全在庫の確保によるリスクを分散
慢性	気候変動 自然資本	干ばつにともなう地域的な水不足による製品の安定的な供給が困難になる	中長期 Middle	リスクの定期モニタリング、事業継続計画（BCP）に基づくリスクを低減

※1 青字：前回評価からの変更箇所

※2 短期：1年、中期：～3年、長期：～10年

環境課題に対する機会

機会／カテゴリー	想定される機会※ ¹	影響期間※ ² 財務影響	取り組み※ ¹
資源効率			
気候変動	より効率的な輸送手段の利用やIoT活用によりオペレーションが最適化される	短～長期 High	グローバル物流プロセスのデジタライゼーションやリモートサービス、 添付文書や表示値などの製品付随情報のデジタル化 を通じ、CO ₂ 削減を推進
気候変動 自然資本	梱包や製品設計の見直しによる原材料コストや廃棄物量が低下する	短～長期 High	梱包資材や形態の見直しによる省資源化、脱プラスチック素材への代替、ドライアイスフリーの超低温輸送 対象の拡大 、 プロダクトロスのゼロ化 、 製造・開発工程で排出される資源の有価物化により、廃棄物削減と資源循環を図る
エネルギー			
気候変動	省エネルギー化によるエネルギーコストの削減や低炭素エネルギーへのシフトによる社会的評価が向上する	中長期 Low	省エネルギー対策や設備の効率化、再生可能エネルギーの導入や ZEB 認証取得 、 社用車の低燃費車への切替 、 電力消費量の高い既存製品切替促進を通じ、エネルギー使用量を低減
製品とサービス			
気候変動 自然資本	自然環境の悪化にともなう長期的な疾患動向の変化により、新たな検査機会が創出され、検査需要が拡大する	中長期 Middle	マラリアなどの感染症対策や 薬剤耐性(AMR) に寄与する製品開発や、 デジタル技術を活用した公的保健医療政策との連携強化に向けた活動を推進
市場			
気候変動 自然資本	顧客の購入意識の変化により、環境に配慮した製品や 非常時問わず対応可能な製品などへのニーズが高まるなど、新たな製品・サービスの創出機会が生まれる	中長期 Middle	省電力・小型化製品や、 省エネ・省資源技術を活かしたサーキュラーエコノミー型製品、診断薬の有効期限を延長する開発などの推進
評判			
気候変動 自然資本	気候変動・ 自然資本 への取り組みと情報開示により、金融市場での評価・期待が高まる	短～中期 Low	TCFD・ TNFD 対応をはじめ、シスメックスサステナビリティデータブックなどによる環境情報の開示
レジリエンス			
気候変動 自然資本	自然災害発生時における製品・サービスの安定供給により、顧客からの信頼が向上する	中長期 Middle	グローバルな供給体制や原材料の複数社購買によるバックアップ体制を構築

※¹ 青字：前回評価からの変更箇所
※² 短期：1年、中期：～3年、長期：～10年

自然資本（淡水・土壌）維持につながる活動

SBTN AR3T 分類※	水資源の維持	土壌の機能維持
回避 (Avoid)	—	・容器包装に関する資材や形態の見直し ・試薬化粧箱の FSC 認証紙適用 ・添付文書や表示値などの製品付随情報のデジタル化
軽減 (Reduce)	・濃縮試薬製品の拡充や分散生産 ・生産工程における水使用量削減	・プロダクトロスのゼロ化（未使用製品リサイクル） ・試薬の有効期限延長
復元・再生 (Restore・Regenerate)	—	・水平リサイクル可能な試薬容器開発 ・生産・開発工程における排出資源の有価物化
変革 (Transform)	環境配慮型技術およびグリーンインパクト製品の開発	

※ SBTN AR3T：Act – Science Based Targets Network

▶各取り組みの詳細については[こちら](#)

▶優先地域における事業拠点の影響評価については[こちら](#)

リスクと影響の管理

全社的なリスクマネジメント体制として、取締役会、および取締役社長の下に内部統制委員会が組織され、その下部組織の一つとして環境管理委員会が位置付けられています。環境管理委員会は、年2回の頻度で気候変動を含む環境関連のリスクと機会の見直しを行い、関連する各部門に必要な取り組みを割り当てます。同委員会が取り組みの進捗をモニタリングします。

環境管理委員会は、中長期の視点においても、数年に一度の頻度で、事業への影響が大きな環境関連リスクを特定し対策を講じ、その結果を代表取締役が議長を務める経営会議に報告するとともに、内部統制委員会が主導する全社のリスクアセスメントにインプットします。

▶リスクマネジメント

指標と目標

シスメックスは、「2040年カーボンニュートラル宣言※」および2033年度を最終年度とする長期経営戦略において定める非財務目標の推進に向け、「シスメックス・エコビジョン2033」およびサステナビリティ目標を設定しています。

自然資本に関する指標・目標については、TNFDの提言に基づきLEAPアプローチを通じた評価結果を反映し、全社の非財務目標体系に統合したうえで、他の環境目標とあわせて一元的に管理しています。

具体的には、気候変動に関する目標として温室効果ガス排出量削減、自然資本に関する目標として主要な試薬生産拠点の試薬生産量あたりの水消費量削減、プロダクトロスのゼロ化（未使用自社製品の廃棄率0.1%未満）、リサイクル・環境配慮材料への完全代替などを設定し、研究開発から生産・物流・廃棄まで製品ライフサイクルのあらゆる段階で、さまざまな取り組みを継続して推進していきます。

※ 2040年までにグループの事業所から排出される温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標であり、スコープ1およびスコープ2が対象

▶サステナビリティ目標の進捗状況「環境への負荷低減」をご覧ください。

▶環境パフォーマンスデータ

環境マネジメントシステム

グループ環境マネジメント体制

▶ TCFD・TNFD に基づく情報開示 ガバナンス

ISO 14001 認証の取得を推進

シスメックスでは、グループの主要な関係会社において環境マネジメントシステムの国際規格 ISO 14001 の取得を進めています。

2025 年 3 月末現在、グループ 20 社で認証を取得し、認証取得拠点の売上比率は約 70%となっています。

また、一部では活動の進捗状況や問題点をグループとして把握しマネジメント活動を強化していくために環境活動を一元化し、シスメックス株式会社、シスメックス RA、シスメックスメディカの 3 社 9 拠点で、統合認証を取得しています。この結果、環境経営に関わる情報を体系的に共有することが可能となりました。

ISO 14001 認証取得状況

地域	会社名
日本	シスメックス株式会社、シスメックスメディカ、シスメックス RA
米州	シスメックス アメリカ、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス ブラジル
EMEA ※	シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス フランス、シスメックス スペイン、シスメックス UK、シスメックス・ベルギー、シスメックス・オランダ、シスメックス・ノルディック、シスメックス・ハンガリー
中国	シスメックス 無錫、済南シスメックス
AP	シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス インディア、シスメックス オーストラリア

※欧州、中東、アフリカ地域



▶ 詳細は www.tuv.com の ID 0910589004 を参照
(活動およびサイトの適用範囲は規格により異なります。)

環境監査の実施

ISO 14001 認証を取得している各拠点では、環境マネジメントシステムの要求事項に従って、「内部環境監査」および「外部環境審査」を定期的の実施しています。2024 年度は、認証統合している国内グループ拠点の内部環境監査、外部環境審査の不適合は、ともに 0 件でした。

環境教育

環境教育・訓練の実施

シスメックスでは、グループの環境活動やそれぞれの業務がどのように環境に影響を及ぼすかを周知するための全従業員向け一般教育と、各部門に設定した環境マネジメントシステム推進責任者および推進担当者に対する実務知識習得のための専門教育を実施しています。さらに、各部門で必要に応じて専門教育や緊急事態訓練なども行っています。

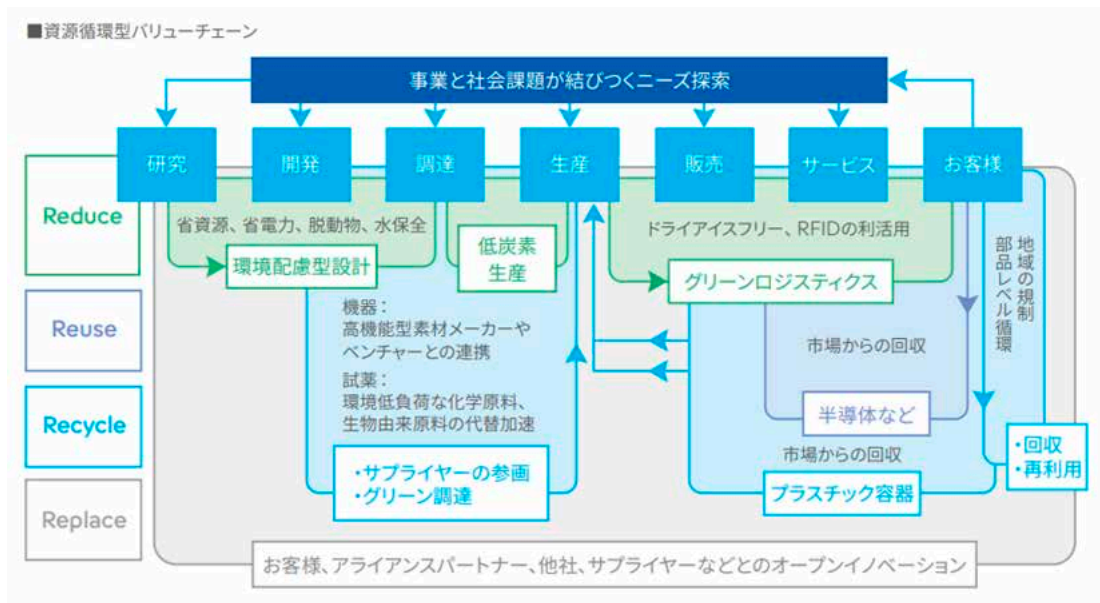
2024 年度は、ISO 統合認証の適合事業所に所属する全従業員向けに e ラーニングによる環境一般教育を行いました。また、事業所担当者および製品ライフサイクル部門の担当者向けの法規制セミナーを実施しました。

環境

製品ライフサイクルにおける資源循環

製品ライフサイクルと各段階での取り組み

シスメックスでは、製品ライフサイクル全体において、依存と影響の視点で環境負荷低減に向け、あらゆる事業活動の段階でさまざまな取り組みを実施しています。2023 年度からは、長期経営戦略の基本戦略に含まれるエコソーシャル戦略のもと、従来の活動に加え、資源循環型バリューチェーンの実現に向けたさらなる活動を推進しています。



研究開発における環境配慮

製品の省電力化・小型化

シスメックスでは、お客様が製品を使用される際のエネルギーや廃棄物の削減に貢献するため、製品ライフサイクルマネジメントに関するグローバル規程に、製品ライフサイクルの各段階における経営上適切と考えられる環境配慮の取り組みを明記し、検体検査装置の省電力化、試薬使用量の削減などの製品開発に取り組んでいます。

2021 年に発売されたヘマトロジー分野の検体搬送システム商品群では、従来システムよりサイズ（横幅）を 15%削減、消費電力も 40%削減しました。また、2022 年に発売された全自動尿中有形成分分析装置では、従来装置よりサイズを 30%削減、1 測定当たりに必要な洗浄液量を 10% 削減し、消費電力も約 30%削減することで環境配慮設計を実現しました。

グリーンイノベーションを推進する社内プログラム「環境塾」

シスメックスでは、2024 年度より、社内プログラム「環境塾」を開始しました。このプログラムでは、設計開発部門のリーダー層が中心となり、自社製品の環境配慮設計を実現するための議論を行っています。2025 年度からは、対象部門をバリューチェーンの主要部門に拡大し、環境負荷低減を新製品開発やモデルチェンジ時の重要な要素として捉え、エコソーシャル戦略の実践を通じてグリーンイノベーションを推進しています。

▶ サステナビリティ目標の進捗状況

小型化
高さ −24cm 、奥行 −28cm
設置面積
30%削減
消費電力
30%削減
洗浄液量
10%削減

※ 従来機種比



脱動物原料の開発（生物多様性への配慮）

シスメックスでは、天然資源の使用抑制を目指して、診断薬における動物由来原料のタンパク質に関して、カイコや培養細胞を利用した生産手法を確立しました。従来、これらの原料の生産には多くのエネルギーを消費していましたが、カイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけでよいため、原材料の安定供給・品質の安定化が図られるとともに、省エネルギーやCO₂排出量・水使用量・廃棄物削減も期待できます。

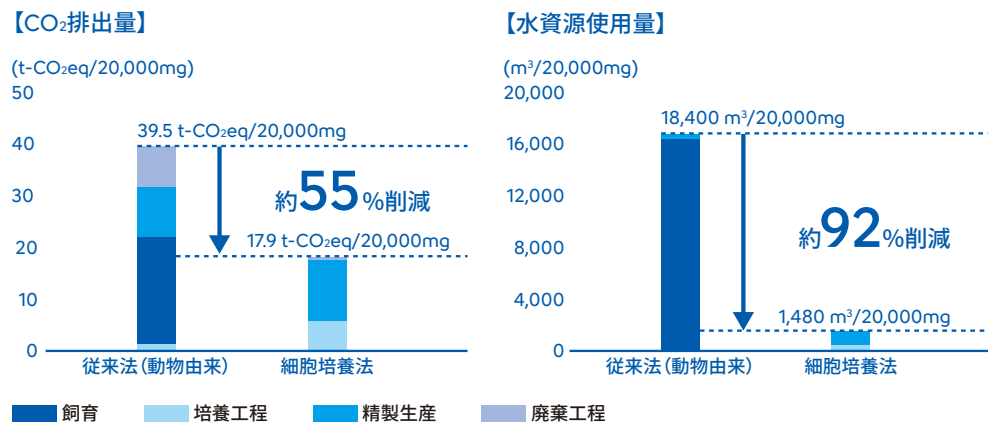
2017年度に販売を開始した血液凝固検査の試薬の原料にも、カイコから生産した遺伝子組み換えタンパク質を用いています。本試薬は、原料に遺伝子組み換えタンパク質を用いた試薬として、国内で初めて製造販売承認を取得しています。さらに、他の試薬においても、遺伝子組み換え技術を用いた新原料の開発・適用を検討しており、生物多様性に配慮した製品ラインナップを増やす取り組みを進めています。

これらの生産手法の切り替えによる環境へのインパクトについて、LCA（ライフサイクルアセスメント）定量評価の共同研究を東京都市大学 伊坪徳宏教授（現 早稲田大学）と実施し、その結果、従来の原材料生産方法と比較して50%以上のCO₂削減効果が確認できました。



カイコを利用した原料生産

従来法と細胞培養法切り替えによる環境インパクトの比較



調達における環境配慮

グリーン調達の推進

シスメックスは、調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定し、環境負荷が少ない原材料・部品の調達推進と、環境保全に意欲的なサプライヤーとの取引を拡大しています。また、毎年各サプライヤーに対して実施しているCSR調査では、環境管理に関する方針、CO₂削減や省エネルギーに関する目標、計画の有無などを確認しています。

2023年の調達方針説明会では、当社のエコソーシャル戦略を紹介しました。CO₂排出量削減やさまざまな環境配慮対応について、サプライヤーとの協働をお願いし、環境配慮の改善に成果を上げたサプライヤーを表彰しました。

また、スコープ3排出削減に向けては、サプライヤーによるSBTi認定取得、またはそれに準じた目標設定を促進するためのエンゲージメント目標を設定し、当社はSBTiによる認定を受けました。

このエンゲージメント目標の達成に向け、2024年度には、SBTi認定取得や目標設定の重要性、削減活動の好事例などを紹介するサプライヤー向け勉強会を開催し、約130社が参加しました。

▶調達方針

▶グリーン調達基準

▶サプライチェーンマネジメント

製品の化学物質管理

シスメックスは、電気・電子製品における特定有害物質の含有を制限する各国のRoHS規制や、残留性有機汚染物質を国際的に規制するストックホルム条約（POPs条約）をはじめとする、各国・地域の化学物質に関する規制を遵守しています。

こうした規制への対応のため、当社では製品に含まれる化学物質の管理基準を定め、生産・販売する製品を構成する部品、デバイス、試薬溶液などに含まれる化学物質（環境負荷物質）を適切に管理しています。

▶含有禁止物質（成形品）

▶含有禁止物質（化学品）

▶含有禁止予定物質（成形品）

▶含有禁止予定物質（化学品）

▶含有管理物質（成形品）

▶含有管理物質（化学品）

製品輸送・販売・サービスにおける環境配慮

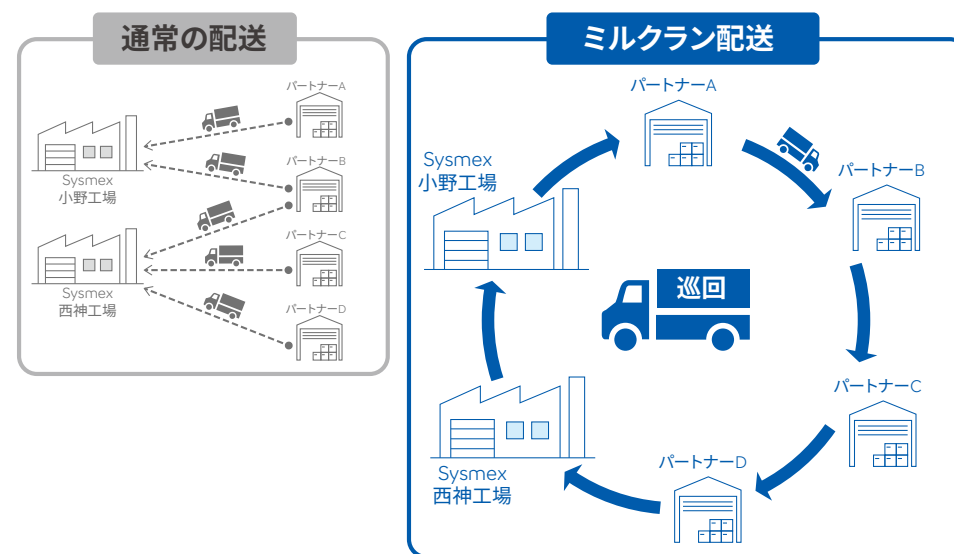
モーダルシフトや生産拠点移管などによる物流CO₂削減

シスメックスでは、物流におけるCO₂排出量の削減を目的として、より環境負荷の少ない輸送手段への切り替えを進めています。具体的には、航空輸送から海上輸送へ、トラック輸送から鉄道輸送へと切り替えるモーダルシフトを推進しています。

また、異業種の企業と連携した共同輸送や、グローバルな視点での効率的な輸送ルートへの検討にも取り組んでいます。さらに、試薬製品の生産拠点を移管することで、拠点間の輸送距離を短縮し、物流にともなうCO₂排出量の低減を図っています。

試薬原材料や機器部品の輸送においては、「ミルクラン方式」（1台の車両が複数の取引先を巡回して集荷・配送する方式）を導入し、車両運行の効率化によるCO₂削減につなげています。

生産拠点の移管も着実に進めています。シスメックス無錫では、試薬製品に加え、従来は外部に依存していた複雑な構造の試薬容器についても、現地のサプライヤーと連携し、数年にわたる開発を経て自社での生産を実現しました。



ドライアイスフリーと混載輸送による物流 CO₂ 削減

シスメックスは、厳格な品質・温度管理が必要な遺伝子検査用試薬や生化学検査用精度管理物質については、ドライアイスを利用し輸送していましたが、CO₂ 排出による環境負荷、超低温による凍傷や炭素ガスによる中毒リスクがありました。

2021年に、ヤマト運輸株式会社と連携し、遺伝子検査用試薬のマイナス 70℃超低温帯での混載輸送をドライアイスフリーで実現し、さらに、2022年には東邦薬品株式会社と協力し、生化学検査用精度管理物質の完全ドライアイスフリー輸送も実現しました。2024年には他の代理店にも拡大し、200 施設以上のお客様にドライアイスフリーで配送し、CO₂ 排出量の削減と安全性の向上につなげています。

輸送梱包の見直しによる省資源化

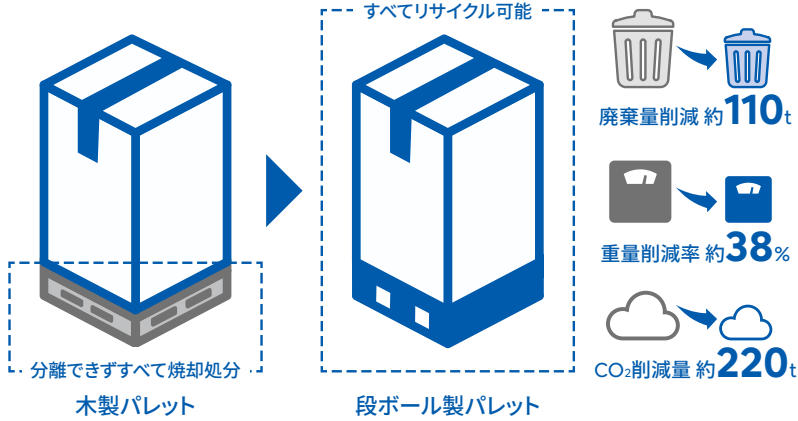
シスメックスは、環境保護と事業成長の両立を目指し、輸送梱包の見直しを通じて省資源化を推進しています。例えば、機器製品の外装箱下に使用される木製パレットを、環境に配慮した段ボール製パレットに切り替えることで、廃棄物削減と軽量化による輸送時の CO₂ 削減を実現しました。従来の木製パレットは、木材と段ボールの分離が手間であるため、すべて焼却せざるを得ませんでしたが、段ボール製パレットへの切り替えによりリサイクルが可能となりました。この取り組みは、2022 年度から 2024 年度にかけて、約 110 トンの廃棄物削減と約 220 トンの CO₂ 削減を達成し、輸送効率や環境負荷低減に大きく貢献しています。これらの成果は、当社が掲げるエコビジョンの目標達成に寄与し、持続可能な未来に向けた重要なステップとなっています。

また、バイオ診断薬の海外輸送においては、蓄冷材の再利用を進めることで廃棄物削減につなげています。日本から中国への輸送においてリユースを実施し、2024 年度には 5.7 トンの廃棄物削減を達成しました。

リサイクル・環境配慮材料への完全代替

シスメックスは、製品容器や包装材に使用するすべての材料について、リサイクル可能・環境に配慮した材料に代替する活動を継続的にを行っています。製品容器においては、FSC 認証素材を利用した試薬化粧箱への切り替え、包装材においては古紙再生紙が配合された段ボールやパーツ用ビニル系緩衝材の紙製緩衝材への切り替えを行っています。これらの取り組みにより、容器・包装材の環境配慮材料の利用率において、2024 年度は中期経営計画目標である 60% を上回り、62% を達成しました。2025 年度は目標を 65% に引き上げ、取り組みを継続します。

グループ会社においても、製品パッケージの環境配慮を進めています。オックスフォード ジーン テクノロジーでは、Green packaging project を発足し、従来と比較してプラスチック使用量を約 97% 削減する新たな製品パッケージを実現しました。



グループ会社での取り組み ～環境に配慮した物流パートナーとの連携～

シスメックス ヨーロッパでは、物流パートナーの選定基準の中に、環境マネジメントシステムの認証取得やグリーン物流活用の有無を組み入れています。グループ会社の HITADO では、再エネ電力や電気自動車を積極的に利用している物流パートナーを採用しており、シスメックス マレーシアでは、温度管理が必要な製品輸送において、再利用可能な真空断熱箱を使用し、節電による CO₂ 削減と発泡スチロール箱の廃棄削減を実現しています。また、シスメックス トルコにおいても、太陽光パネルが設置された外部倉庫に製品を保管するなど、パートナーと連携して環境負荷低減に取り組んでいます。

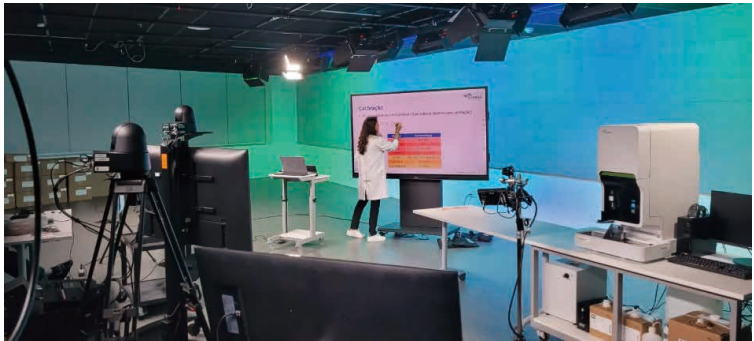
会社名	取り組み内容
シスメックス リージェンツ・アメリカ	・原材料輸送用箱を再利用可能なコンテナに変更 ・取引先と連携し、原材料のパッケージをリサイクル可能な容器に変更
シスメックス ヨーロッパ 他 EMEA 地域関係会社	・再エネ電力や電気自動車を積極的に利用している物流パートナーを採用 ・太陽光パネルが設置された外部倉庫に製品を保管 ・出荷／輸送の統合や組み合わせを検討し、輸送頻度を削減 ・試薬容器にリサイクル可能な植物性繊維を使用 ・保冷用発泡スチロール箱の代替品検討（羊毛断熱など） ・発泡スチロール緩衝材をペーパースクラップに切り替え ・梱包用のプラスチックテープを紙ベースのテープに切り替え ・パッケージ、緩衝材の再利用
シスメックス オーストラリア	・温度管理が必要な製品輸送時に、推奨冷却温度での管理が可能で、再利用可能な断熱コンテナを使用

製品トレーニングにおける環境配慮

シスメックスでは、参加者の移動にともなう CO₂ 排出量の削減につなげるため、機器の操作やメンテナンスに関するユーザートレーニング、学術セミナーなどを世界各地域でオンライン開催できる環境を整備・拡充しています。お客様が任意のタイミングでいつでもどこでもスキル習得できる e ラーニングに加え、本格的なオンラインスタジオを活用したライブ感あふれるバーチャルトレーニングの提供により、トレーニングセンターから離れた地域であっても標準化された高品質な製品トレーニングを受講いただくことが可能です。

また、シスメックスおよび代理店の技術サービス担当者およびアプリケーションサポート担当者向けにも、製品の専門スキルをバーチャル空間で学習できるトレーニングを提供しています。このようなトレーニングのオンライン比率を高める取り組みを通じて、高い顧客満足度と CO₂ 排出量削減の両立を推進しています。

▶お客様満足度の向上



製品の使用・廃棄における環境配慮

業界初、試薬容器水平リサイクルとプラ新法認定の取得

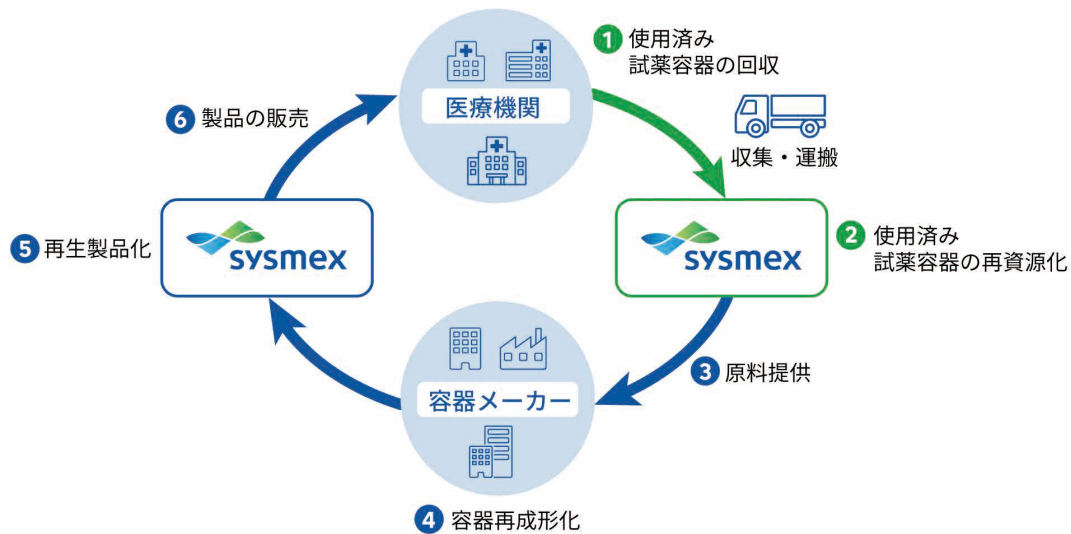
シスメックスでは、2025 年 1 月より、業界初となる※¹ プラスチック製試薬容器の水平リサイクル※²を開始しました。この取り組みは、これまでヘルスケア業界では、品質の面から困難とされてきましたが、医療用グレードに対応可能な再生樹脂を確保することで、使用済みプラスチック製試薬容器の再原料化を実現しました。これにより、容器の素材となるバージン樹脂の資源消費の抑制（約 30％）とともに、使用済み容器の廃棄処分にともなう CO₂ 排出削減（年間約 15 トン）※³につなげます。

また、2025 年 6 月には、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に基づく「製造・販売事業者等による自主回収・再資源化」事業計画の認定を受けました。これにより、全国の医療機関からプラスチック製の使用済み試薬容器を回収するための産業廃棄物収集運搬業の許可が不要となり、プラスチック再資源化の計画（年間 5 トン）が加速されます。さらに、水平リサイクルの対象となる品目拡大も可能となり、原価低減にもつながります。今後も、持続可能な資源循環型社会の実現を目指していきます。

※¹ 当社調べ

※² 使用済み製品を原料として、再び同じ種類の製品を製造するリサイクル方法

※³ 当社試算による：同様のプラスチック容器 160g を焼却すると 500g の CO₂ が発生するというメーカー調べの情報に基づく、当社で発生する使用済み容器の物量を掛け合わせた試算



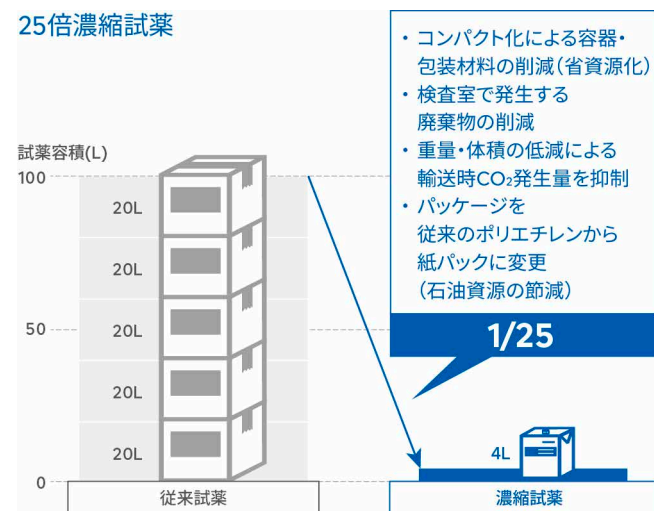
部品のリサイクルによる省資源化

シスメックスでは、2023 年から分析装置の保守パーツを廃棄せず、有価物として売却する取り組みを開始しました。2024 年からはさらに輸送中に損傷して販売できなくなった分析装置についても、有価物として売却しています。この活動の結果、2024 年度には 10.3 トンの廃棄物削減※を実現しました。

※廃棄物すべてをプラスチックと仮定し、環境省の定めている産業廃棄物換算係数より試算

濃縮試薬による環境負荷低減とユーザビリティ向上

シスメックスでは、ヘマトロジー分野の一部分析装置において、従来の試薬を 25 倍に濃縮した試薬を導入しています。この濃縮試薬の利用により、検査室での試薬交換頻度が低減し、在庫保管のスペースも削減されるなど、ユーザビリティの向上に大きく貢献しています。さらに、濃縮試薬の導入は、容器や梱包材の廃棄物削減に加え、輸送時の CO₂ 排出量の削減など、環境への配慮も実現しています。また、濃縮試薬の普及率をサステナビリティ目標として設定し、今後も環境負荷低減に向けた取り組みを進めていきます。



ゼロメタノール染色液と対応装置による安全性向上と環境配慮の実現

シスメックスは、医療現場での安全性と環境への配慮を両立させる新たな取り組みを開始しました。血液検査において血中の細胞形態を評価するためには、塗抹標本を作製する際にメタノールを含む染色液が使用されています。しかし、医療機関ではメタノールの毒性による医療従事者への健康リスクや、規制対応にともなうコスト増加、有害物質による環境への負荷といった課題があります。

これらの課題を解決するために、シスメックスはメタノールを含まないゼロメタノール染色液とそれに対応する装置を発売※し、安心安全な検査室運営を支援するソリューションを提供します。これにより、メタノール使用による健康リスクを低減するとともに、輸送や保管にかかる費用とリスクも軽減され、医療機関における運営効率の向上に貢献します。さらに、有害物質の削減による環境負荷の低減にもつながります。

今後も、医療現場の安全性と環境配慮を両立させたソリューションを製品・サービスに組み込むことで、ステークホルダーの皆さまからの信頼の獲得を目指すとともに、企業価値の向上につなげてまいります。

※欧州一部と米国にて先行発売予定、その他地域でも順次発売予定

環境

事業活動における環境負荷低減

生物多様性との関わり

シスメックスは、気候変動対策に加え、水や森林、土壌などの「自然資本」への配慮も重要と考え、これらの課題に統合的に取り組んでいます。2025 年には、TNFD の提言に基づき、当事業活動の自然資本への依存と影響が大きい対象として、淡水と土壌を特定しました。そして、資源使用量と生産規模を踏まえて選定した日本地域の 3 拠点において、地域への負荷と、適切利用のための当社活動と効果を確認しました。その結果、周辺地域への環境影響は確認されませんでした。今後は、評価対象拠点を順次拡大していく予定です。

日本地域 3 拠点の影響評価

拠点	主な依存と影響		地域への影響
テクノパーク	淡水	地下水の利用	使用にともなう地盤沈下などの周辺地域への悪影響は確認されていない 2 カ月に 1 回神戸市に報告するなど、水資源の適正管理と使用量削減に向け継続的な監視体制を構築
小野工場	淡水	水資源の利用と排出	自治体からの配水量との比較により、地域への影響は限定的な使用量 年間使用量・排出量ともに減少傾向
	土壌	プラスチック容器の利用	国内プラスチック材総生産量との比較により、極めて少ない使用量として、環境への影響は限定的 水平リサイクルや環境配慮材代替によりさらなる使用量低減見込み
アイスクエア	土壌	金属（鉄類）の利用と廃棄	国内全体の鉄生産量との比較により、ごくわずかな使用量として、環境への影響は限定的 リサイクル率 96% や排出物の有価物化により、高い水準で資源の有効活用を実施

▶ TCFD・TNFD 提言に基づく情報開示はこちら

温室効果ガスの排出量削減

事業所の温室効果ガス排出量の削減活動

シスメックスでは、直接的または間接的に発生する温室効果ガスの排出量を削減するため、高効率な空調システムや LED 照明、人感センサー、需要電力を計測・監視するデマンド制御など、省エネルギーを実現するための設備の導入を進めています。

2023 年度には、国内試薬生産工場、研究開発拠点など、国内主要施設の全電力を再生可能エネルギー由来の電力へ切り替えました。また、グループの基幹工場の一つであるシスメックス RA は、2025 年 4 月に稼働を開始した新工場の建物について、建築物省エネルギー性能表示制度（BELS※¹）でネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB※²）の認証を取得しています。

シスメックス ヨーロッパの試薬生産工場では、太陽光パネルの設置に加え、氷蓄熱空調システム※³を導入し、試薬製造に必要なエネルギーの約 35%を補っています。その他 EMEA※⁴、米州をはじめとした各拠点で再生可能エネルギー由来の電力採用を進めています。

シスメックス アメリカでは、本社サイトの LEED 認証※⁵ 取得に向け、部門横断の「グリーンチーム」を結成し、環境活動を推進しています。電気自動車の充電ポートの設置や LED 照明の改善、太陽光パネルの設置など、認定に向けてさまざまな取り組みを継続して行っています。

- ※¹ BELS（Building-Housing Energy-efficiency Labeling System）：建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（建築物省エネ法）に基づく建築物の省エネ性能表示制度
- ※² ZEB（Net Zero Energy Building）：高効率な設備システムの導入などにより、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化（省エネ）を実現したうえで、再生可能エネルギーを導入することにより（創エネ）、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロにすることを目指した建築物のこと
- ※³ 氷を利用して熱エネルギーを貯蔵する技術
- ※⁴ 欧州、中東、アフリカ地域
- ※⁵ 水利用効率、エネルギー使用の最適化、材料の省資源化、室内における空気質環境を評価するなど、建物の環境負荷低減と利用者の健康の観点から、多角的に建物の環境性能を評価する認証制度



新工場（シスメックス RA）



各事業所の主な取り組み

取り組み	会社名	内容
設備などの高効率化	シスメックス株式会社	高効率型の空調および LED 照明への切替 生産改革による生産性向上
	シスメックス CNA	全照明の LED 化
	シスメックス アメリカ	全照明の LED 化
	シスメックス ヨーロッパ	主要な試薬充填室の照明の LED 化 人感センサーの採用
	シスメックス アジア・パシフィック	工場と倉庫の照明の LED 化 エアコンプレッサ未使用時は機器を休止させ節電する 制御盤を導入
	シスメックス インディア	工場内照明の LED 化
	済南シスメックス	天然ガスボイラーの使用（石油ボイラーからの切り替え） 冬季暖房と純水原水加熱のためのガスボイラーを空気 熱源ヒートポンプに切り替え
	シスメックス 無錫	空調温度の制限設定による節電
再生可能エネルギーなどの 導入	シスメックス株式会社	太陽光パネルの設置 自然光採り入れによる節電（アイ スクエア） 再生可能エネルギー由来の電力使用
	シスメックス アメリカ シスメックス リージェンツ・ アメリカ	再生可能エネルギー由来の電力使用 カーボンニュートラルの天然ガスに 100%切り替え
	シスメックス ヨーロッパ	太陽光パネルの設置 再生可能エネルギー由来の電力使用（全電力）
	シスメックス UK	太陽光パネルの設置
	済南シスメックス	太陽光パネルの設置
従業員への啓発	シスメックス ヨーロッパ	出張時の電車利用に対するインセンティブ付与、カー シェアリング社内サイトの設置、通勤時の自転車提供
	シスメックス マレーシア	通勤時にハイブリッド車を使用している従業員にイン センティブを付与
	シスメックス インディア	通勤時に利用している従業員の自家用車はすべて PUC 証明※を受けたものであることを確認
	シスメックス ブラジル	社用車燃料のバイオ燃料への切り替え

※ Pollution Under Control の略で、車からの排出ガスが公害規制基準値以下であることを証明するもの。

社用車の CO₂ 排出量削減

シスメックス株式会社では、約 400 台ある国内の社用車の燃料消費量を抑え CO₂ 排出量を削減するため、全社用車にドライブレコーダー型テレマティクスサービスを搭載し、各車両のエコドライブ状況、法令遵守などの可視化を行い、運転の質の見える化を行っています。また、全従業員を対象としたエコドライブ研修を実施し、ドライバー一人ひとりの環境に対する意識の向上を図っています。これらの活動が評価され、交通エコロジー・モビリティ財団主催「2024 年度エコドライブ活動コンクール」で優秀認定証を受賞しました。低燃費車への切り替えも進めており、2024 年度末で全体の約 60% がハイブリッド・低燃費車両へ切り替えが進みました。

グローバル全域においても環境に配慮した車両や燃料の導入を進めています。シスメックス ブラジルでは、社用車の燃料にサトウキビ由来のバイオ燃料を使用し、さらに自社倉庫から顧客への配送には電気自動車の採用を進めています。シスメックス UK では、ディーゼル車を撤廃し、全車両のハイブリッドカーへの入れ替えを行いました。

水資源の有効利用と維持

水使用量の削減

シスメックスでは、試薬生産において水を原料として使用するなど、事業活動の中で上水や地下水を使用しています。そのため、水使用量の削減を重要な課題の一つと位置付け、シスメックス・エコビジョン 2033 で水使用量の削減目標を設定し、試薬生産工場での水の使用効率を高めるなどの取り組みを進めています。

試薬生産工場である小野工場では、同一製品の連続生産回数を増やし、製品品質への影響を十分に確認したうえで、生産ラインの洗浄回数削減を実現しました。また、製造プロセスの見直しを行い、配管内に残り廃液となっていた製品液を製品化する技術を獲得しました。これらの活動により、水使用量の削減、排液による環境負荷低減を実現しました。

各事業所の主な取り組み

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	・診断薬生産工場で生産効率の改善を進めることにより、水使用量を削減 ・テクノパークでは、適正な使用量をモニタリングのうえ、井戸から取水し緑化用水、トイレ用水として使用
シスメックス アジア・パシフィック	・超純水プラントを改良し、工場が稼働していない時間帯を利用して RO 水（純水）をリサイクル ・精製水製造設備の精製効率モニタリングによる水使用量削減 ・試薬製造後の製造設備洗浄用水の削減
シスメックス インディア	・生産工程で生じた水をリサイクルし、灌漑用水として活用 ・敷地外への排水ゼロを目指すゼロリキッドディスチャージシステム※を新工場に導入
シスメックス ブラジル	・生産工程で生じた水をリサイクルし、生活用水として活用 ・24 時間稼働していた精製水製造設備の洗浄システムを平日のみの稼働に変更
シスメックス 無錫	・水消費量の削減目標を定め、環境・安全衛生専任者を設置し、環境・安全衛生の定期監査を実施 ・生産時の水使用プロセスやサイクルを見直し、効率化を図ることで水使用量を削減

※工場からの排水を複数の処理方式によって浄化・再利用し、工場敷地外への排水をゼロにするシステムのこと



インド新生産拠点

排水管理・処理

シスメックスでは水質の保全を重視し、化学物質を扱う開発拠点や工場からの排水で河川や地下水に影響が及ばないように独自の排出基準を設定し、管理しています。

各事業所の主な取り組み

会社名	方法
シスメックス株式会社	・診断薬生産工場の小野工場で BOD（生物化学的酸素要求量）の基準値を超えた場合にアラーム（警報）を発出するシステムを導入し、有機物を含む廃液の流出を未然防止
シスメックス RA	・廃液処理装置を導入し、感染性廃液を加熱滅菌で無害化して直接下水へ排出
シスメックス アメリカ	・排水処理システムを導入し、試薬製造時に発生する廃液からホウ素含有物を除去
シスメックス アジア・パシフィック	・排水処理システムを導入し、試薬製造時に発生する廃液を下水道に排出する前に浄化
済南シスメックス	・生産過程で発生した廃ドラム缶や廃紙などのリサイクル可能な廃棄物をリサイクルと適切処理のために第三者機関に委託

廃棄物の管理とリサイクル

廃棄物量の削減と安定したリサイクル率の維持

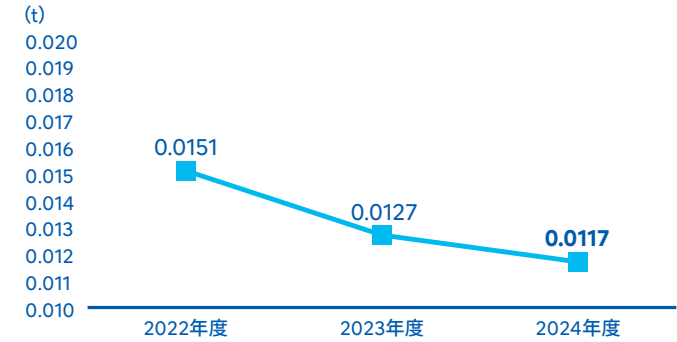
シスメックスでは、廃棄物の削減やリサイクル率の向上に継続的に取り組んでいます。研究開発拠点のテクノパークでは、2023 年度より発泡スチロールの溶融機と機密紙用大型シュレッターを導入しました。この設備を活用し、事業所内で発生する発泡スチロールを再生プラスチック原料へ変換し、有価物として売却しています。また、大型シュレッターで細かくした紙くずをトイレットペーパーに加工し再利用しています。これにより廃棄物の量を大幅に削減することができています。また、自社の装置類や不要となった冷凍冷蔵庫など金属くずについても、有価物として売却する運用を開始し、2024 年度の有価物化総量は約 56 トンとなりました。

国内試薬生産工場では、取引先と連携した取り組みを推進しており、段ボールのリユース通い箱への変更、過剰包装の見直しをすることで納品用梱包材の廃棄削減を実現しました。

国内機器生産工場のアイ スクエア・加古川工場では、廃プラスチック混合廃棄物から分別処理を試行的に実施し、2024 年度は約 10 トンを有価物として売却しました。また、加古川工場では、社員食堂での生ごみの廃棄量を減らすため、専用の処理機を利用して生ごみを有機肥料に変換し、生産農家に提供しています。そこで栽培された農産物を購入するなど、循環共生型社会の実現に貢献しています。

▶梱包材、部品などのリサイクルによる廃棄物削減については「製品輸送・販売・サービスにおける環境配慮」をご覧ください。

段ボール廃棄量



※ 対象:国内試薬工場
※ 段ボール廃棄量:廃棄量(トン)÷自社製品箱数(千箱)

資料の電子データ化を推進

シスメックスではパソコンやタブレット端末、スマートフォンなどを活用した電子データの送受信でペーパーレス化に取り組んでおり、紙使用量および廃棄量の削減を実現しています。また、製造拠点においても、製造記録やマニュアルの電子化によりペーパーレス化を推進しています。

各事業所の主な取り組み

会社名	方法
シスメックス アメリカ	・試薬廃棄物の処理方法を埋め立てから廃棄物エネルギー処理に切り替え中（2023 年から 2025 年までの 3 年間で 50 ～ 100 トンの廃棄物をリサイクル予定）
シスメックス ブラジル	・輸入時の梱包に使用する発泡スチロールと保冷剤の再利用をパートナー企業と共同で実施
シスメックス メディカ	・コピー用紙の 100%を普通紙から環境対応用紙に変更
シスメックス アジア・パシフィック	・計量用ドラムに使用しているアルミ箔を再利用可能な素材に変更 ・廃棄していた化学原料の容器をリサイクル
シスメックス マレーシア	・段ボール箱、プラスチック材料のリサイクルおよび慈善団体へ寄付
済南シスメックス	・汚泥フィルタープレス設備の入れ替えと QC 活動により、汚泥の含水率を下げ、有害廃棄物の排出量を削減

▶サステナビリティ目標の進捗状況

有害物質の管理

化学物質の管理

シスメックスでは、製品の研究開発や生産工程で化学物質を扱っています。そのため紛失・漏えいの防止はもちろん、現場で作業に従事する従業員に健康被害が及ばないように化学物質の適正管理に努めています。

▶製品の化学物質管理

有害廃棄物の管理・処理

シスメックスでは、生物由来の物質による万が一の感染の危険性に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。また、その他の有害物質についても、飛散の抑制、流出や地下浸透がないように設備・管理手法の両面から対策を講じ、排出を法規制の基準値以下に抑えるよう努めています。

大気への排出に関する管理・処理

国内のグループ会社では、フロン排出抑制法に対応するために、各社で対応手順マニュアルを作成し、所有・管理するフロン含有機器の明確化、適切使用、点検の実施、算定漏えい量の把握を実施しています。